

表 43 各試験における無毒性量及び最小毒性量

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日)	最小毒性量 (mg/kg 体重/日)	備考 <sup>1)</sup>
ラット	90日間 亜急性 毒性試験①	0, 20, 60, 200 ppm 雄：0, 1.57, 4.83, 15.9 雌：0, 1.74, 5.23, 17.2	雄：1.57 雌：1.74	雄：4.83 雌：5.23	雌雄：APTT延長
	90日間 亜急性 毒性試験②	0, 20, 60, 200 ppm 雄：0, 1.18, 3.64, 11.9 雌：0, 1.28, 3.91, 12.7	雄：3.64 雌：3.91	雄：11.9 雌：12.7	雌雄：APTT延長等
	2年間 慢性毒性/ 発がん性 併合試験	0, 10, 60, 200 ppm 雄：0, 0.356, 2.13, 7.17 雌：0, 0.432, 2.60, 8.74	雄：0.356 雌：0.432	雄：2.13 雌：2.60	雌雄：出血に関連した病理所見 (腸管のターレット様内容物等)  (発がん性は認められない)
	2世代 繁殖試験	0, 10, 30, 100 ppm P雄：0, 0.7, 2.1, 7.2 P雌：0, 0.8, 2.6, 8.3 F <sub>1</sub> 雄：0, 0.9, 2.7, 9.1 F <sub>1</sub> 雌：0, 0.9, 2.9, 9.7	親動物及び 児動物 P雄：2.1 P雌：2.6 F <sub>1</sub> 雄：2.7 F <sub>1</sub> 雌：2.9	親動物及び 児動物 P雄：7.2 P雌：8.3 F <sub>1</sub> 雄：9.1 F <sub>1</sub> 雌：9.7	親動物 雌雄：眼出血を伴う死亡 児動物 雌雄：出血に関連した剖検 所見等  (繁殖能に対する影響は認め られない)
	発生毒性 試験	0, 3, 10, 20	母動物：10 胎児：20	母動物：20 胎児：-	母動物：臍出血 胎児：毒性所見なし  (催奇形性は認められない)
マウス	90日間 亜急性 毒性試験	0, 20, 100, 600, 3,000 ppm 雄：0, 2.28, 11.3, 68.1 雌：0, 2.55, 13.6, 76.7, 451	雄：11.3 雌：13.6	雄：68.1 雌：76.7	雌雄：肝細胞肥大等
	18カ月間 発がん性 試験	雄：0, 20, 100, 200 ppm 雌：0, 20, 200, 600 ppm 雄：0, 1.95, 14.4, 35.2 雌：0, 1.94, 19.2, 58.7	雄：1.95 雌：19.2	雄：14.4 雌：58.7	雌雄：全身性の出血傾向を伴う 死亡及び切迫と殺動物の 増加等  (発がん性は認められない)
ウサギ	発生毒性 試験	0, 2.5, 5, 10, 20	母動物：10 胎児：20	母動物：20 胎児：-	母動物：臍出血及び死亡 胎児：毒性所見なし  (催奇形性は認められない)
イヌ	90日間 亜急性 毒性試験	0, 250, 750, 1,500 ppm 雄：0, 7.28, 22.1, 44.9 雌：0, 7.58, 24.3, 47.1	雄：7.28 雌：7.58	雄：22.1 雌：24.3	雌雄：小葉中心性肝細胞肥大等
	1年間 慢性毒性 試験	0, 150, 500, 1,500 ppm 雄：0, 3.70, 12.3, 35.9 雌：0, 4.16, 13.5, 38.7	雄：3.70 雌：4.16	雄：12.3 雌：13.5	雌雄：小葉中心性肝細胞肥大等

1) 備考に最小毒性量で認められた毒性所見の概要を示した。  
-：無毒性量又は最小毒性量は設定できなかった。

食品安全委員会は、各試験で得られた無毒性量のうち最小値がラットを用いた2年間慢性毒性/発がん性併合試験の0.356 mg/kg 体重/日であったので、これを根拠として、安全係数100で除した0.0035 mg/kg 体重/日をADIと設定した。

ADI	0.0035 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	慢性毒性/発がん性併合試験
(動物種)	ラット
(期間)	2年間
(投与方法)	混餌投与
(無毒性量)	0.356 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

<別紙1:代謝物/分解物略称>

略称	名称	化学名
[2]	IP-diol	2-[2-(3-クロロフェニル)-2,3-ジヒドロキシプロピル]-2-エチルインダン-1,3-ジオン
[3]	IP-diol (P4,5)	2-[2-(3-クロロ-4,5-ジヒドロ-4,5-ジヒドロキシフェニル)-2,3-エポキシプロピル]-2-エチルインダン-1,3-ジオン
[4]	IP-keto	2-(3-クロロフェナシル)-2-エチルインダン-1,3-ジオン
[5]	IP-deoxy	2-[2-(3-クロロフェニル)-2-プロペニル]-2-エチルインダン-1,3-ジオン
[6]	IP-diol-Gluc	2-[2-(3-クロロフェニル)-2,3-ジヒドロキシプロピル]-2-エチルインダン-1,3-ジオンのグルクロナイド
[7]	IP-diol-2Me (A)	2-[2-(3-クロロフェニル)-3-ヒドロキシ-2-メトキシプロピル]-2-エチルインダン-1,3-ジオン
[8]	IP-diol-2Me (B)	[7]の回転異性体
[11]	IP-2OH-3Cl	2-[3-クロロ-2-(3-クロロフェニル)-2-ヒドロキシプロピル]-2-エチルインダン-1,3-ジオン
[12]	IP-triol (P4)	2-[2-(3-クロロ-4-ヒドロキシフェニル)-2,3-ジヒドロキシプロピル]-2-エチルインダン-1,3-ジオン
[13]	IP-triol (ID)	2-[2-(3-クロロフェニル)-2,3-ジヒドロキシプロピル]-2-エチル- $\alpha$ -ヒドロキシインダン-1,3-ジオン
[14]	IP-triol	2-[2-(3-クロロフェニル)-1,2,3-トリヒドロキシプロピル]-2-エチルインダン-1,3-ジオン
[15]	IP-triol (E2)	2-[2-(3-クロロフェニル)-2,3-ジヒドロキシプロピル]-2-(2-ヒドロキシエチル)-インダン-1,3-ジオン
[17]	IP-2OH-COOH	2-[2-(3-クロロフェニル)-2-カルボキシ-2-ヒドロキシエチル]-2-エチルインダン-1,3-ジオン
[18]	IP-3OH	2-[2-(3-クロロフェニル)-3-ヒドロキシプロピル]-2-エチルインダン-1,3-ジオン
[19]	IP-2CHO	2-[2-(3-クロロフェニル)-2-ホルミルエチル]-2-エチルインダン-1,3-ジオン
[20]	IP-2OH-DM	2-[2-(3-クロロフェニル)-2-ヒドロキシエチル]-2-エチルインダン-1,3-ジオン

略称	名称	化学名
[23]	DE-IP	2-[2-(3-クロロフェニル)-2,3-エポキシプロピル]インデン-1-オン-3-オール
[24]	IP-keto-DE	2-(3-クロロフェナシル)インデン-1-オン-3-オール
[25]	IP-1CE-2CHO	2-[1-(2-クロロエチル)-2-(3-クロロフェニル)-2-ホルミルエチル]インデン-1-オン-3-オール
[26]	HIP-1V-2CHO	2-[2-(3-クロロフェニル)-2-ホルミル-1-ビニルエチル]インデン-1-オン-3-オール
[27]	DIP-1V-2CHO	2-[2-(3-クロロフェニル)-2-ホルミル-1-ビニルエチレン]-2H-インデン-1,3-ジオール
[28]	NP	3-エチル-2-[1-(3-クロロフェニル)-1,2-エポキシエチル]-2,3-ジヒドロナフトキノン
[29]	NP-diol (P4,5)	3-エチル-2-[1-(3-クロロ-4,5-ジヒドロ-4,5-ジヒドロオキシフェニル)-1,2-エポキシエチル]-2,3-ジヒドロナフトキノン
[30]	IE-CH <sub>2</sub> OH	2-エチル-2-ヒドロキシメチルインダン-1,3-ジオン
[34]	CP-HMK	3-クロロフェナシルアルコール
[35]	CP-AcGly	N-[2-(3-クロロフェニル)アセチル]グリシン
[37]	IP-(ID-1-OH)-diol-3-SO <sub>3</sub> H	2-(3-クロロフェニル)-3-(2-エチル-3-ヒドロキシ-1-オキシインダン-2-イル)-2,3-ジヒドロキシプロパン-スルホン酸 または 2-(3-クロロ- $\alpha$ -ヒドロキシフェニル)-3-(2-エチル-3-ヒドロキシ-1-オキシインダン-2-イル)-2-ヒドロキシプロパン-スルホン酸
[39]	IP-1-keto-3-OSO <sub>3</sub> H	2-(3-クロロフェニル)-3-(2-エチル-1,3-ジオキシインダン-2-イル)-3-オキソプロピルハイドゲン-サルフェート
[40]	IP-1-keto-2-OH-3-SO <sub>3</sub> H	2-(3-クロロフェニル)-3-(2-エチル-1,3-ジオキシインダン-2-イル)-2-ヒドロキシ-3-オキソプロパン-スルホン酸
[41]	IP-2-OH-COO 塩	2-[2-(3-クロロフェニル)-2-カルボキシ-2-ヒドロキシエチル]-2-エチルインダン-1,3-ジオンの塩
[46]	IDF-SG	-
[47]	IDF-SCys	-
	M-6	未同定代謝物

略称	名称	化学名
M-39		未同定代謝物
M-51		未同定代謝物
M-68		未同定代謝物

ー：参照資料に記載がなく不明

<別紙2：検査値等略称>

略称	名称
ai	有効成分量 (active ingredient)
Alb	アルブミン
ALP	アルカリホスファターゼ
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ [=グルタミン酸ピルビン酸トランスアミナーゼ (GPT) ]
APTT	活性化部分トロンボプラスチン時間
BCF	生物濃縮係数
C <sub>max</sub>	最高濃度
CMC	カルボキシメチルセルロース
Cre	クレアチニン
Hb	ヘモグロビン (血色素量)
HPLC-RLG	高速液体クロマトグラフ-ラジオリミノグラフ
Ht	ヘマトクリット値
LC <sub>50</sub>	半数致死濃度
LD <sub>50</sub>	半数致死量
MC	メチルセルロース
MCH	平均赤血球血色素量
MCHC	平均赤血球血色素濃度
MCV	平均赤血球容積
PEC	環境中予測濃度
PHI	最終使用から収穫までの日数
PL	リン脂質
PLT	血小板数
PT	プロトロンビン時間
RBC	赤血球数
T <sub>1/2</sub>	消失半減期
TAR	総投与 (処理) 放射能
T.Chol	総コレステロール
TLC	薄層クロマトグラフ
T <sub>max</sub>	最高濃度到達時間
TRR	総残留放射能
UDS	不定期 DNA 合成試験

<参照>

- 1 農薬抄録インダノファン（除草剤）：日本農薬株式会社、平成19年8月24日改訂、一部公表予定
- 2 MK-243の生体内運命に関する試験（ラットにおける吸収、分布、排泄（GLP対応））：（株）三菱化学安全科学研究所、1996年、未公表
- 3 MK-243の生体内運命に関する試験（ラットにおける代謝（GLP対応））：（株）三菱化学安全科学研究所、1997年、未公表
- 4 MK-243の生体内運命に関する試験（連続投与ラットにおける吸収、分布、代謝および排泄（GLP対応））：（株）三菱化学安全科学研究所、1997年、未公表
- 5 MK-243の生体内運命に関する試験（マウスにおける単回投与時の吸収、分布、代謝および排泄（GLP対応））：（株）三菱化学安全科学研究所、1997年、未公表
- 6 MK-243の生体内運命に関する試験（マウスにおける吸収、分布、代謝および排泄（GLP対応））：（株）三菱化学安全科学研究所、1997年、未公表
- 7 MK-243の生体内運命に関する試験：ラット肝臓S-9 in vitro系における代謝：（株）三菱化学安全科学研究所、1995年、未公表
- 8 MK-243の生体内運命に関する試験（ラット肝臓S-9 in vitro試験系における代謝（追加試験）（GLP対応））：（株）三菱化学安全科学研究所、1996年、未公表
- 9 MK-243のイネにおける代謝試験（GLP対応）：（株）三菱化学安全科学研究所、1997年、未公表
- 10 MK-243の土壌中における分解試験（GLP対応）：（株）三菱化学安全科学研究所、1997年、未公表
- 11 MK-243-好気土壌代謝・日本土壌（GLP対応）：（株）日曹分析センター、1997年、未公表
- 12 MK-243-好気土壌代謝・米国土壌（GLP対応）：（株）日曹分析センター、1997年、未公表
- 13 MK-243の土壌吸着試験：（株）三菱化学安全科学研究所、1996年、未公表
- 14 MK-243の土壌吸脱着試験（GLP対応）：（株）三菱化学安全科学研究所、1998年、未公表
- 15 インダノファン（MK-243）の加水分解運命試験（GLP対応）：日本農薬（株）、2005年、未公表
- 16 MK-243のpHの関数としての加水分解試験：（株）三菱化学安全科学研究所、1995年、未公表
- 17 MK-243の水中の光分解性試験：（株）三菱化学安全科学研究所、1995年、未公表
- 18 MK-243の水中共分解物の解析（GLP対応）：（株）三菱化学安全科学研究所、1997年、未公表
- 19 MK-243の水中共分解試験（GLP対応）：（株）三菱化学安全科学研究所、1997年、未公表
- 20 MK-243土壌残留試験成績報告書（GLP対応）：（株）三菱化学安全科学研究所、1996

- 年、未公表
- 21 農薬残留分析結果報告（1.5%粒剤、玄米、茨城・大阪、1995年）：（財）日本食品分析センター、1996年、未公表
- 22 農薬残留分析結果報告（1.5%粒剤、稲わら、茨城・大阪、1995年）：（財）日本食品分析センター、1996年、未公表
- 23 農薬残留分析結果報告（1.5%粒剤、玄米、茨城・大阪、1995年）：日本エコテック（株）、1996年、未公表
- 24 農薬残留分析結果報告（1.5%粒剤、稲わら、茨城・大阪、1995年）：日本エコテック（株）、1996年、未公表
- 25 農薬残留分析結果報告（1.5%粒剤、玄米、茨城・大阪、1995年）（分析対象：IP-diol）：（財）日本食品分析センター、1996年、未公表
- 26 農薬残留分析結果報告（1.5%粒剤、稲わら、茨城・大阪、1995年）（分析対象：IP-diol）：（財）日本食品分析センター、1996年、未公表
- 27 農薬残留分析結果報告（1.5%粒剤、玄米、茨城・大阪、1995年）（分析対象：IP-diol）：日本エコテック（株）、1996年、未公表
- 28 農薬残留分析結果報告（1.5%粒剤、稲わら、茨城・大阪、1995年）（分析対象：IP-diol）：日本エコテック（株）、1996年、未公表
- 29 農薬残留分析結果報告（1.5%粒剤、玄米、茨城・大阪、1995年）（分析対象：IP-diol-2Me(B)）：（財）日本食品分析センター、1997年、未公表
- 30 農薬残留分析結果報告（1.5%粒剤、稲わら、茨城・大阪、1995年）（分析対象：IP-diol-2Me(B)）：（財）日本食品分析センター、1997年、未公表
- 31 農薬残留分析結果報告（1.5%粒剤、玄米、茨城・大阪、1995年）（分析対象：IP-diol-2Me(B)）：日本エコテック（株）、1996年、未公表
- 32 農薬残留分析結果報告（1.5%粒剤、稲わら、茨城・大阪、1995年）（分析対象：IP-diol-2Me(B)）：日本エコテック（株）、1996年、未公表
- 33 MK-243原体の生体機能に及ぼす影響に関する試験（GLP対応）：㈱三菱化学安全科学研究所、1996年、未公表
- 34 MK-243原体のラットを用いた急性経口毒性試験（GLP対応）：Life Science Research Center（現Huntingdon Life Sciences Ltd.）、1995年、未公表
- 35 MK-243原体のマウスを用いた急性経口毒性試験（GLP対応）：Huntingdon Research Centre Ltd.（現Huntingdon Life Sciences Ltd.）、1995年、未公表
- 36 MK-243原体のラットを用いた急性経皮毒性試験（GLP対応）：Huntingdon Research Centre Ltd.（現Huntingdon Life Sciences Ltd.）、1995年、未公表
- 37 MK-243原体のラットを用いた全身吸入暴露による急性毒性試験（GLP対応）：㈱三菱化学安全科学研究所、1996年、未公表
- 38 IP-diolのラットを用いた急性経口毒性試験（GLP対応）：Huntingdon Life Sciences Ltd.、1997年、未公表
- 39 IP-diol-2Me(B)のラットを用いた経口投与による急性毒性試験（GLP対応）：㈱三菱化

- 40 IP-keto のラットにおける単回経口投与毒性試験：三菱化学㈱安全性研究所、1995年、未公表
- 41 IP-diol-2Me(A)のラットを用いた経口投与による急性毒性試験 (GLP 対応)：㈱三菱化学安全科学研究所、1998年
- 42 MK-243 原体のウサギを用いた眼一次刺激性試験 (GLP 対応)：Huntingdon Research Centre Ltd. (現 Huntingdon Life Sciences Ltd.)、1995年、未公表
- 43 MK-243 原体のウサギを用いた皮膚一次刺激性試験 (GLP 対応)：Huntingdon Research Centre Ltd. (現 Huntingdon Life Sciences Ltd.)、1995年、未公表
- 44 MK-243 原体のモルモットを用いた皮膚感作性試験 (Buehler 法) (GLP 対応)：Huntingdon Research Centre Ltd. (現 Huntingdon Life Sciences Ltd.)、1995年、未公表
- 45 MK-243 原体のモルモットを用いた皮膚感作性試験 (Maximisation 法) (GLP 対応)：Huntingdon Life Sciences Ltd.、1996年、未公表
- 46 CD 系ラットを用いた MK-243 原体の 13 週間混餌投与毒性試験 (GLP 対応)：Huntingdon Life Sciences Ltd.、2003年、未公表
- 47 MK-243 原体のラットを用いた混餌法による 13 週間亜急性経口毒性試験 (GLP 対応)：㈱三菱化学安全科学研究所、1995年、未公表
- 48 MK-243 原体のマウスを用いた混餌法による 13 週間亜急性経口毒性試験 (GLP 対応)：㈱三菱化学安全科学研究所、1995年、未公表
- 49 MK-243 原体のイスにおける 13 週間亜急性経口毒性試験 (GLP 対応)：㈱残留農薬研究所、1995年、未公表
- 50 MK-243 原体のイスにおける 12 ヶ月間経口慢性毒性試験 (GLP 対応)：㈱残留農薬研究所、1997年、未公表
- 51 MK-243 原体のラットを用いた混餌法による慢性毒性・発癌性併合試験 (GLP 対応)：㈱三菱化学安全科学研究所、1997年、未公表
- 52 MK-243 原体のマウスを用いた混餌法による 18 ヶ月発癌性試験 (GLP 対応)：㈱三菱化学安全科学研究所、1997年、未公表
- 53 MK-243 原体のラットを用いた混餌投与による 2 世代繁殖試験 (GLP 対応)：Huntingdon Life Sciences Ltd.、1997年、未公表
- 54 MK-243 原体のラットを用いた催奇形性試験 (GLP 対応)：㈱三菱化学安全科学研究所、1996年、未公表
- 55 MK-243 原体のラットを用いた催奇形性試験 (試験番号：5L333) の追加胎仔検査 (GLP 対応)：㈱三菱化学安全科学研究所、1999年、未公表
- 56 MK-243 原体のウサギを用いた強制経口投与による催奇形性試験 (GLP 対応)：Huntingdon Life Sciences Ltd.、1997年
- 57 MK-243 原体の細菌を用いた DNA 修復試験 (GLP 対応)：Huntingdon Research Centre Ltd. (現 Huntingdon Life Sciences Ltd.)、1995年、未公表

- 58 MK-243 原体の復帰変異試験 (GLP 対応)：Huntingdon Research Centre Ltd. (現 Huntingdon Life Sciences Ltd.)、1995年、未公表
- 59 MK-243 原体の CHL 細胞を用いた *in vitro* 染色体異常試験 (GLP 対応)：Huntingdon Research Centre Ltd. (現 Huntingdon Life Sciences Ltd.)、1995年、未公表
- 60 MK-243 原体：マウスを用いた小核試験 (GLP 対応)：Huntingdon Life Sciences Ltd.、2003年、未公表
- 61 IP-diol の復帰変異試験 (GLP 対応)：Huntingdon Life Sciences Ltd.、1996年、未公表
- 62 IP-diol の *in vitro* 哺乳動物細胞遺伝学的試験 (GLP 対応)：㈱三菱化学安全科学研究所、1999年、未公表
- 63 IP-diol のマウスを用いる小核試験 (GLP 対応)：㈱三菱化学安全科学研究所、1999年、未公表
- 64 IP-keto の細菌を用いる復帰突然変異試験：三菱化学㈱安全性研究所、1996年、未公表
- 65 CPED (IP-deoxy)の細菌を用いる復帰突然変異試験 (GLP 対応)：(社)日本油料検定協会、1997年、未公表
- 66 CPED (IP-deoxy)の哺乳動物培養細胞を用いた染色体異常試験 (GLP 対応)：(財)畜産生物科学安全性研究所、1997年、未公表
- 67 IP-deoxy のマウスを用いる小核試験 (GLP 対応)：㈱三菱化学安全科学研究所、1998年、未公表
- 68 IP-deoxy のラットを用いる *in vivo/in vitro* 肝・不定期 DNA 合成 (UDS) 試験 (GLP 対応)：㈱三菱化学安全科学研究所、1999年、未公表
- 69 IP-diol-2Me(A)の細菌を用いる復帰変異試験 (GLP 対応)：㈱三菱化学安全科学研究所、1998年、未公表
- 70 IP-diol-2Me(B)の細菌を用いる復帰変異試験 (GLP 対応)：㈱三菱化学安全科学研究所、1997年、未公表
- 71 MK-243 の生体内運命に関する試験—ラットでの代謝試験における未変化体 MK-243 光学異性体の分離分析：㈱三菱化学安全科学研究所、1998年、未公表
- 72 MK-243 の生体内運命に関する試験—動物代謝試験における植物主要代謝物 IP-diol-2Me(B)の生成確認：㈱三菱化学安全科学研究所、1998年、未公表
- 73 MK-243 の生体内運命に関する試験—ラットにおける胎盤透過性および乳汁移行性 (GLP 対応)：(株)三菱化学安全科学研究所、1997年、未公表
- 74 MK-243 原体のラットにおける繁殖試験の補完試験：三菱化学㈱安全性研究所、1997年、未公表
- 75 ウサギの血液凝固時間に対する MK-243 原体の作用試験：連続投与による影響：㈱三菱化学安全科学研究所、1997年、未公表
- 76 CPED (IP-deoxy)のラットを用いる 28 日間反復投与毒性試験 (化審法 GLP)：(財)畜産生物科学安全研究所、1998年、未公表
- 77 インダノファン、IP-diol および IP-triol(P4)のラットを用いた単回強制経口投与による血

- 液凝固阻害作用の検討：三菱化学㈱安全性研究所、1999年、未公表
- 78 IP-diol およびインダノファン（MK-243）のラットを用いた混餌法による4週間反復投与比較毒性試験（GLP対応）：㈱三菱化学安全科学研究所、1999年、未公表
- 79 インダノファンの残留農薬安全性評価委員会コメント回答資料：日本農薬株式会社、未公表
- 80 食品健康影響評価について（平成19年9月13日付け厚生労働省発食安第0913008号）
- 81 インダノファンの魚介類における最大推定残留値に係る資料
- 82 国民栄養の現状－平成10年国民栄養調査結果－：健康・栄養情報研究会編、2000年
- 83 国民栄養の現状－平成11年国民栄養調査結果－：健康・栄養情報研究会編、2001年
- 84 国民栄養の現状－平成12年国民栄養調査結果－：健康・栄養情報研究会編、2002年
- 85 食品健康影響評価の結果の通知について（平成20年1月10日付け府食第28号）
- 86 食品健康影響評価について（平成22年1月4日付、厚生労働省発食安0104第2号）
- 87 農薬抄録インダノファン（除草剤）：日本農薬株式会社、平成21年9月15日改訂、一部公表予定
- 88 インダノファンの食品健康影響評価に係る追加提出資料：日本農薬株式会社、2009年、未公表
- 89 インダノファンのin vitro代謝：日本農薬（株）総合研究所、2009年、未公表
- 90 [14C-クロロフェニル]インダノファン(MK-243)のコムギにおける代謝試験（GLP対応）：PTRL West, Inc. 2004年、未公表
- 91 インダノファンの作物残留性試験成績：日本農薬株式会社、2007年、未公表